水稲の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/nousan/suitou_seiiku/index.html

第　５　報
千葉県農林水産部
平成１９年７月２５日

早期落水を防止し高品質米生産を！

［生育状況］　（表１、２を参照）

収穫は８月１５日頃から始まる！

７月上・中旬の気温は平年並みからやや低く、日照時間は大幅に少なくなりました。

「ふさおとめ」の出穂後１０日における生育状況は、平年に比べ稈長がやや低く、穂数が多く、葉色はやや淡い状態となっています。

「ふさおとめ」の成熟期は平年よりもやや早い、８月１５日頃からと予測されます。

「ちば２８号」の出穂期は７月１２日から、「コシヒカリ」の出穂期は７月２０日からと、ほぼ平年並みとなり、成熟期は「ちば２８号」が８月１８日、「コシヒカリ」は８月２９日からと予測されます。

表１　品種別の生育遅速と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の平年遅速	成熟期予測（月日）			
			県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	４月２０日	やや早	８月１９日～	８月１７日～	８月１５日～	８月１６日～
ちば２８号（ふさこがね）	４月２０日	並	８月２４日～	８月２３日～	８月２０日～	８月１８日～
コシヒカリ	４月２０日	並	９月２日～	８月２９日～	８月３１日～	８月２９日～
	５月　１日	並	９月６日～	９月４日～	９月２日～	９月３日～

注）「ふさおとめ」「コシヒカリ」の予測はメッシュ予測、平年値は過去５ヵ年平均値。ただし、「ちば２８号（愛称：ふさこがね）」は前年比。

表２　「ふさおとめ」の出穂後１０日の生育状況

	稈長（ｃｍ）	穂長（ｃｍ）	穂数（本/㎡）	葉色
本　年	７７．３	１８．４	４６８	３４．０
平　年	７８．５	１８．７	４３３	３６．６

注）本年値は、香取、館山の平均値。平年値は作柄調査ほ全ほ場の平均値。

［これからの管理のポイント］

７月に入り日照時間が少なく推移したため、米粒の充実が遅れています。今後、品質の良い米を生産するため、早期落水の防止、いもち病の防除を中心とした基本技術を励行しましょう。

早期落水を行わない！(重要)

現在、「ふさおとめ」は乳熟期～糊熟期、「コシヒカリ」は出穂～乳熟期を迎えています。**出穂してから25日間は水が必要**で、「間断かんがい」を行い、根の活力を維持し米粒の充実を図ります。**早期落水すると米粒の充実不足を招き、品質も低下するので、早期落水は行わないようにしましょう。**

穂いもちの発生に要注意！(重要)　（表３、５を参照）

いもち病の発生は「平年に比べやや多い」（病害虫発生予報第４号）と予測されています。葉いもちの発生は少なかったものの、一部で発生の多い地点があることや、進行型病斑が多いことなどから、今後気温が低めで雨の日が多くなると、穂いもちの発生が多くなることが懸念されます。

出穂後も上位葉や穂首などに病斑が見られる場合には、発生状況を確認し、防除を行いましょう。防除薬剤は表３を参照してください。

表３　穂いもち病の主な防除薬剤

対　象	薬　剤　名	使用時期（使用回数）	１０ａあたり散布量
穂いもち	カスミン粉剤ＤＬ カスミン液剤 ブラシン粉剤ＤＬ	収穫１４日前まで（５回） 収穫１４日前まで（５回） 収穫２１日前まで（２回）	３kg １，０００倍、１２０～１５０ﾘｯﾄﾙ ３～４kg

斑点米カメムシ類に注意！　（表４、５を参照）

斑点米カメムシ類の発生は平年並み（病害発生予報第４号）と予想されていますが、今後、場所によっては出穂した水田への飛来数が多くなることもありますので、注意が必要です。

ほ場をよく観察し、成虫、幼虫の発生が多い場合は、薬剤散布を行いましょう（表４）。薬剤の散布にあたっては、収穫前使用日数に十分注意して適正に防除し、他の作物等に飛散しないようにしてください。

表４　カメムシ類の主な防除薬剤

薬　剤　名	使　用　時　期　（使用回数）	１０ａ当たり散布量
エルサン粉剤 3DL	収穫７日前まで（３回以内）	３～４ｋｇ
トレボン粉剤 DL	収穫７日前まで（３回以内）	３～４ｋｇ
MR. ジョーカー粉剤 DL	収穫７日前まで（２回以内）	３～４ｋｇ
ベストガード粉剤 DL	収穫１４日前まで（４回以内）	４ｋｇ

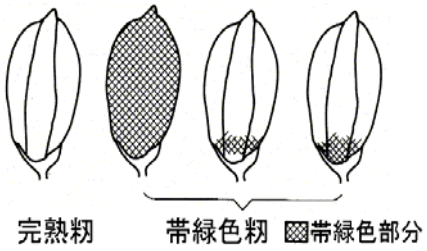
表５　病害虫発生予報（７月１１日発表）

病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
いもち病 （穂いもち）	やや多	７月上旬発生量：葉いもち並 気象予報：気温低（＋） 降水量並か多（＋） ６月下旬～７月下旬の感染好適日数：多（＋）	・ほ場に置いた補植用の苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
斑点米カメムシ類 クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ イネカメムシ シラホシカメムシ類	並	７月上旬雑草地発生量：並 予察灯誘殺数：並 気象予報：降水量並か多（－）	・５月中旬から６月が本田への成虫飛来時期であり、発生が多い場合には薬剤を散布する。

病害虫発生予報はこちらです。
http://www.pref.chiba.lg.jp/boujosyo/index.html

収穫は適期に！　（図１を参照）

図１　帯緑色籾の見分け方



良品質米の生産のため収穫は適期に行いましょう。収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合１５％の時に行いましょう。

（注：帯緑色籾数歩合は生育中庸株１０株から中位穂を選び、不稔籾を除いて数えます。）

なお、各品種ごとの収穫期の目安は、出穂期（全穂数の４０～５０％が出穂した日）から、「ふさおとめ」で３３日前後、「ちば２８号（愛称：ふさこがね）」で３７日前後、「コシヒカリ」で３８日前後です。早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を３時間以上炎天下に放置しておくと、むれ米や茶米が発生し、品質が低下する恐れがあります。収穫後は速やかに乾燥しましょう。

仕上げ水分は１４．５～１５．０％に！

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率０．７～０．８％で行い、仕上げ水分は１４．５～１５．０％とします。

また、籾摺りは、乾燥後、穀温が高い状態で行うと肌ずれ米や胴割米を生じますので、十分放冷し穀温を下げてから行ないましょう。

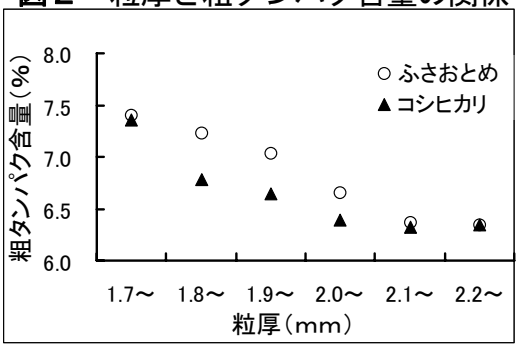
選別には１．８mm 以上の網目を使おう！

（図２を参照）

粒厚１．８mm以上の米は粗タンパク含量が低く、おいしいお米です。

選別の網目は、１．８mm以上にしましょう。

図２　粒厚と粗タンパク含量の関係



異品種の混入を避けましょう！

異品種の混入を防止するため、コンバイン、乾燥機、籾すり機の清掃をていねいに実施しましょう。

ちば２８号（愛称：ふさこがね）出荷に当たっての注意！

出荷用米袋の銘柄、及び品種名はともに「ちば２８号」と記載してください。

生産履歴記帳の推進

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷にあたって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。